２　事業の概要と成果	
（１）プロジェクト目標の達成度（今期事業達成目標）	フィリピン国パタグ村において、日本のイチゴの栽培技術・観光農園運営手法を取り入れて、ビニールハウス 18 棟を建設し、その中に高設栽培ができる設備を設置した。住民団体がセミナー等にてイチゴの生産、加工、販売のノウハウを習得した。イチゴの流通・販売のために加工場とカフェをビニールハウス近傍に建設し、農業の第６次産業化を指向する準備が整った。 地方政府支援のもと、パタグ村でイチゴの観光農業化に道筋がついた。また、パタグ村のイチゴ栽培が他地域に刺激を与え、イチゴの育成だけでなく、苗の販売を行う地区も出現し、ネグロス全体でイチゴ栽培の機運が高まりつつある。
（２）活動内容	(ア)イチゴ栽培用の農地の整備 ビニールハウス等の建設のため、４農場を整地した。 (イ)ビニールハウスの建設 ビニールハウス６棟を順次、建設した。 (ウ)高設栽培用の架台の設置 個々のビニールハウスの内部に、高設栽培用の架台を設置した。 (エ)土壌作成、苗の育成 長期にわたる悪天候[1]により苗の本数を減らし、親苗は 5,000 株となった。 (オ)品質安定化と収量の増加 1・2 年次に実施できなかったオンサイト研修と本邦研修を補完するため、住民団体肥料の専門会社であるハイポネックスジャパンと経済特区に進出している種苗会社 MKP にパタグ村に適した苗の育成方法の指導を受けた。 (カ)行政とタイアップした一般農家へのサポート イチゴ苗が悪天候により十分に育たず、一般農家向けのセミナーを開催するまでに至らなかった。ただし、2 年次に市長、議員、各地の村の役員、国の出先、住民の参加によるセミナーを開催しており、情報がうまく拡散し、現在でも反響が大きい。現在、個別に訪問してくる農家（年間 13 件）に対して栽培方法等の情報とサンプルの苗を提供した。 (キ)販売先確保のためのツールの開発と販売パートナーとの協働 マニラ、セブ販売先の開拓、ロゴのデザイン化を実施した。生果の物流インフラに未整備なところがあり、適切なパッケージングを得るには至らなかった。また、パタグ村でイチゴケーキづくりセミナーやマーケティングセミナーを開催した。 (ク)観光農園の運営（カフェの建設を含む） ３つのサイトそれぞれに付属する小規模カフェスタンドを建設し、観光農業機能の強化を図った。観光施設としてふさわしい付属物をサイトに設置した。

[1] ラニーニャ現象で１年を通して、熱帯低気圧がフィリピン付近で次々と発生し、フィリピン全土でロゴのデザイン案を完成しました。暴風雨 の頻度が高まった。天候不順で、農産物に大きな被害を与えており、玉ねぎ１つの小売価格が 350 円もするニュースが日本にも伝わった。

（３）達成された成果

栽培記録簿、出納帳等で１次データを入手し、事業成果を推計した。総じて、ビニールハウスなどハードウェアの整備を事業期間中に終了することができた。しかし、新型コロナ感染症拡大による事業の大幅遅延、台風と異常気象の外乱によって、苗のダメージが大きかったといえる。ソフトウェアのイチゴ生産の規模が計画値を下回り、その都度、対策を講じてきた。本事業の前に行った３年間のスタートアップでは生産効率が損益分岐点を超えていた。住民組織の良好な事業運営の継続し、生産環境維持のため、イカオ・アコの支援・モニタリングを続行する。

関連するSDGsの達成状況は以下のとおりである。

SDGs1 「貧困をなくそう」　　今後、生産が拡大し、成果が出ると予想

SDGs8 「働きがいも 経済成長も」　栽培農家だけでなく、関心を持つ市民が多く、間接効果が大きい。経済成長につながる農業の第６次産業化である。

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」　関係者の期待が大きく、地域に与えるインパクトが大きい。農村部から若者が流出しているが、生活を維持することができる働き口を提供することができる。

SDGs15「陸の豊かさも守ろう」　少ない面積で付加価値のある農作物を収穫できることから環境負荷が少ない。

カフェの利用者にヒアリングしたところ、シライ市内だけでなく、大都市のバコロドやさらに遠隔地からの市民の訪問が期待される。申請書の裨益人口（シライ市だけの25,000人）の数倍100,000人の間接裨益人口を見込むことができる。

指標に基づく成果

期待される成果	成果指標	3年次の目標	3年次の成果
現地に適合した技術、設備を使用して、高品質イチゴ（糖度 10～12、一粒の重量12グラム）の栽培が可能となる	① 温室数（棟） ② 栽培農家数（戸） ③ BAFA 栽培本数 隣接地区栽培本数 ④ 糖度 ⑤ 一粒重量（g）	6 19 9,000 15,000 12 15	ハードウェアの整備は予定通り達成された。①温室６棟、加工場TinyCafe3棟の建設が完了した。 ②栽培農家数は23農家 サブコア・隣接地域で本事業以外で栽培に取り組んでいた農家の温室の復旧が進んでいない（2年次台風被害）。 ③BAFAの栽培本数は天候不順のため、苗5,000に留まっている。 本事業以外のサブコア地域、隣接地域において12農家で、約3,000本の栽培（2年次の台風被害の後遺症が残る） ④糖度（10）、⑤一粒重量（12g）を確保した。
資材、人材が整い、高設栽培システムを構築し、果実の生産性が日本の半分の1.43 t/年･10aに向上する	① 10a当り収穫量/年 ② 年度収穫金額（万円） ③ 1農家収入（万円 ④ 収入伸び率	2.0t 540 24 184	①2年次で1.0トン/反の生産性に到達したが、天候不順により0.5という数字にとどまった。 ②生産が天候不順により、本格化していないため、少量である。約60万円の販売額である。 ③上記の理由により平均2万円の収入にとどまる ④2年連続で収入が少なかった。

		⑤ 苗・資材の販売額（万円/年）	200 8	⑤悪天候の中で対応に追われ苗を販売するまでに至らなかった。
	特産品として高品質イチゴが認知され、販路が倍増するとともに、観光農園により、パタグ村の観光客が20％増大する。 以上によりPatag村の世帯所得が平均68%向上する。	① 固定的生産量(t) ② 〃売上額（万円） ③ 加工場顧客数 ④ カフェ顧客数 ⑤ 加工場・カフェのイチゴ消費(t) ⑥ 〃売上高（万円） ⑦ イチゴ園入場者 ⑧ 〃入場料収入	1.8 540 5,000 5,000 1.7 － 220 12,000 48万円	①②BAFA の生産量は天候不順の影響があって、約340 kgであり、販売額は約65万円である。目標に比べて一桁少ない数値となっている。 ③加工に回すイチゴ成果は現在ないため、実稼働を事業終了後に持ち越す。 ④カフェはオープン前から盛況で月に200 人以上が利用している。市民が口コミで訪問してくる。現在、営業許可を申請中。イチゴの魅力を示すエビデンスとなっている。 ⑤生産した340kgすべてをカフェに回している。 ⑥年間の売り上げに換算すると、約100万円となる ⑦⑧住民組織BAFAの会議で、入場料を徴収しないことを決定した。今後、イチゴの販売、加工場、カフェでの売り上げでカバーする計画である。行政の期待も大きく、隣接地域への展開や観光化の計画に弾みがつくと考える。

（４）持続発展性	①市による観光農業の振興（シライ市との協働） シライ市観光課は、3年間のスタートアップに刺激を受け、観光農園を「パタグ村観光計画」の一要素にすることを企画している。シライ市役所と村議会と協議しながら観光農業をさらに充実させたい。関係者からの期待度が大きい。 ②BAFAとのMOA締結とイカオ・アコのモニタリング 事業終了後、資機材の維持管理をBAFAが担い、事業を確実に引き継ぐ。イカオ・アコは以下のようなモニタリングを行う。 a. イチゴ農場（高品質イチゴを産出しているか、観光客を集めているか） b. 加工場（イチゴ加工品を生産しているか、販売所として機能しているか） c. カフェ（イチゴを活用したメニューで観光客の興味を引いているか） そのほか、住民組織BAFAへの栽培とマーケティング指導や会計のモニタリングがあげられる。